

Q1-1. 常位胎盤早期剥離（早剥）とはどんな病気ですか？

子宮の正常位置（常位）に付着した胎盤が、赤ちゃんが生まれる前（早期）に子宮の壁から剥がれる（剥離）病気です。この病気は1000分娩に5.9件の割合で発生します。関連する病気を表1に示しますが、きっかけとなる病気もなく、原因不明のこともあります。また喫煙女性に起こりやすいとされています。

典型的な症状は、腹痛またはお腹のはりおよび性器出血です。病気が進行すると、持続する強い痛みとなり、「板状硬」といわれるほど子宮が硬くなります。しかし痛みや出血が軽度で、切迫早産、陣痛やおしるしと見分けがつかないこともあります。また胎盤が剥がれた部分から出血しますが、胎盤と子宮の間出血が溜まり、出血しないこともあります。強い下腹部痛を訴え、性器出血が多くないにもかかわらず、お母さんの顔面が蒼白となったら、この病気を疑います。一方これらの症状がなく、胎動を感じない、腰痛、頭痛・便意などから始まる場合もあり、症状はさまざまです。

胎盤は子宮の壁に付着して、お母さんから酸素や栄養を受け取るので、胎盤が剥がれてしまうと、赤ちゃんに十分な酸素が送れなくなります。そのため赤ちゃんにも危険が及び、この病気で約10%の赤ちゃんが死亡するとされていますし、脳性麻痺の主たる原因とも考えられています。一方お母さんは出血多量だけでなく、産科DIC（産科Q1-3）に陥りやすく、血液が固まりにくい状態になって、やはり生命に危険がおよび妊産婦死亡の原因になります。多くの場合で剥離は時間とともに進行するため、基本的には緊急で帝王切開が行われます。しかし、分娩後もお母さん、赤ちゃんともに集中治療が必要なことが多いため、設備の整った施設に搬送されてから帝王切開が行われることもあります。また診断された時に、すでに赤ちゃんが亡くなっている場合には、経膈分娩によって出産することもあります。

常位胎盤早期剥離は繰り返しやすいことが知られており、一度起こすと次回妊娠ではこの病気が10倍程度起こりやすくなります。また、この病気を起こした女性は、静脈血栓塞栓症（産科Q3-2）に注意する必要があるため、前の妊娠で常位胎盤早期剥離であったことを、次回妊娠時に担当医へ伝えて下さい。

日本病院評価機構（<http://www.jcqh.or.jp/>）産科医療補償制度 再発防止に関する報告書・提言「妊産婦の皆様へ常位胎盤早期剥離ってなに？」にも解説がありますので、参考にして下さい。

（板倉 敦夫）

表1 常位胎盤早期剥離に関連する病気

高血圧（妊娠高血圧症候群，高血圧合併妊娠）
絨毛膜羊膜炎
羊水過多
前期破水
外傷（交通事故など）